

写真1 着脱室と浴室間を移動している。

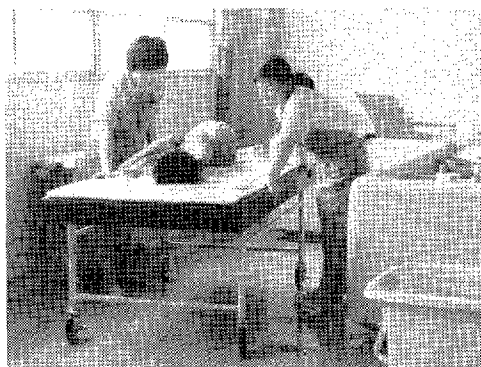
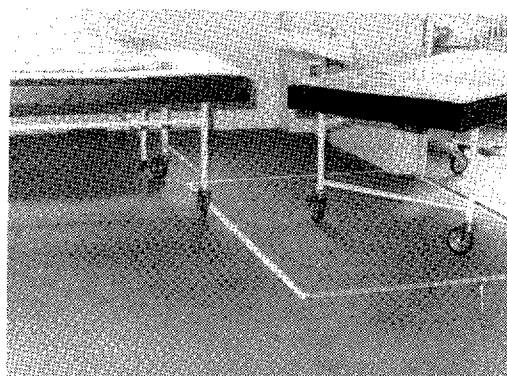


写真2 着脱室の床面にゴムカーペットを敷く。



〔むすび〕

待望の機械の導入も、明るい見通しがついたので、これが実現すれば入浴回数も増え、介助者の労力も緩和されるのではないかと、今から期待している。看護の面ではまだまだ改善事項も多々あると思うが、私達は子供達がより良い環境の中で、毎日の生活が快適に過せることを目標に工夫し改善していきたい。

52 浴場の改良を実施して

国立療養所再春荘

森下茂子 久末静代

米丸瑞子

他筋ジス二病棟一同

筋ジス病棟における入浴が、患者、職員、双方にとって、よりよいものとなるように、共同研究を行っている。その中で、私共も設備について、研究を重ね、実際に、浴場の一部改良を行い1年5ヶ月を経過した。改良前の問題点

1) 出入口が、ドア式で2ヶ所あり狭い。(写真1)

2) L字型の掘下げ式浴槽のため、床上で洗うために、介助者は中腰姿勢で負担がかかる。

3) 排水溝が入口ぎりぎりにあり、排水が悪く、不潔になり易い。以上の3点でした。そこで改良を行った部分が、改良前の浴場と比べて、どのような結果を示しているか。調査検討を行ったので報告する。調査方法は、アンケート式で対象者は成人患者27名、職員29名、患者の最高体重70kg、最低22kg、平均43.8 kg

写真1

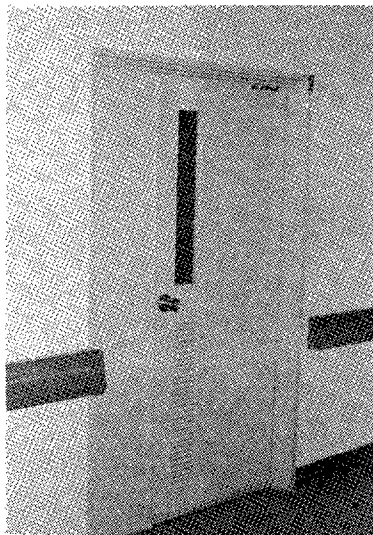
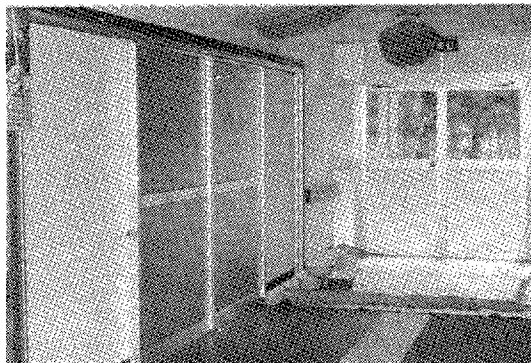


写真2



アンケートの結果について

- 1) 出入口が狭く2ヶ所あったのを両開き戸とした。(写真2.3) 患者側、改良前がよい8%、改良後がよい44%、その他48%、職員側、改良前がよい0%、改良後がよい90%、その他10%、職員は勤務交替により、改良前を知らないと言う10%以外は、出入口が広くなり、混雑せず、車椅子や、ストレッチャーの出入りが楽になり、介助し易くなった。と答えている。患者側の改良前がよいには冬は寒く、外から見えずぎると答えた者もいる。
- 2) 浴槽はL字型でふちの高さ15cmの堀下げ式から長方形の腰高60cmへ改良した。(写真4.5) 患者側、改良前がよい30%、改良後がよい30%、その他40%、職員側、改良前がよい10%、改良後がよい48%、どちらも云えない14%、その他28%、患者側の改良前がよいには、ふちが高くなり、足があげ難い。浴槽が浅くなった、と答えた者もいる、改良後がよいは浴槽が広くゆっくりと、足をのぼせる、洗い台の上から入れるので、入り易い。職員側改良前がよいには、一部介助者で自力で入浴出来た患者も、ふちが高くなったため、全介助が必要となった。改良後がよいには、中腰姿勢での介助が少くなり、お湯のくみあげや、洗う時の介助が楽になった。患者の身に汚水がかからない。5～6人の患者を一度に浴槽に入れられる。と答えている。

写真3

ドアの改良

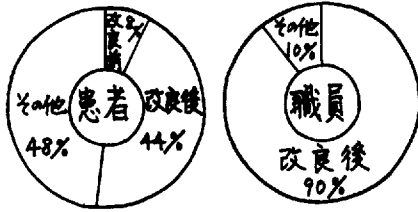


写真4

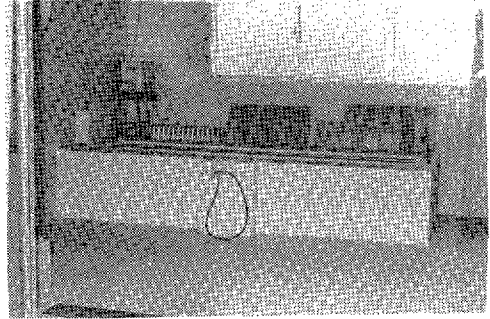


写真5

浴槽の改良

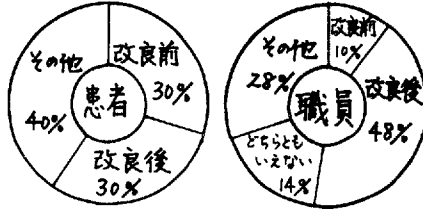


写真6

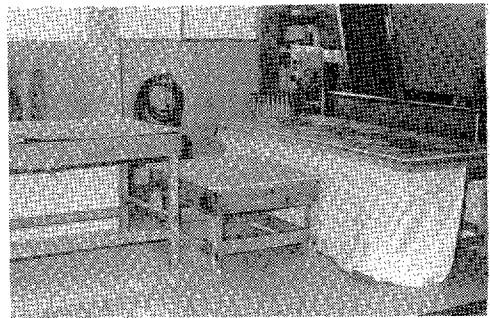


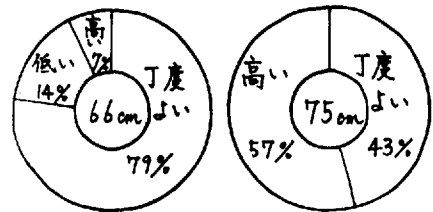
写真7

洗い台の高さ

3) 洗い台の高さについて (写真6.7)

洗い台は、45cm、66cm、75cmの3種類ある。

- イ) 45cmの洗い台は全員丁度よい。
- ロ) 66cmの洗い台は79%が丁度よい。
低い14%、高い7%
- ハ) 75cmの洗い台は57%が高い、丁度よい43%、高いと答えた人が半数あるが、介助者が、身長に見合った、洗い台を使用するように努めている。



4) 排水溝の改良について

排水溝が、改良前は入口ぎりぎりにあり、排水が悪く廊下にあふれることもあったが、改

良後はドアより15cm引いて設置したため不都合は解決された。

〔ま と め〕

アンケートに示すように浴槽については大きな問題となっていた、中腰姿勢の介助が少くなり腰痛対策面では、大きく改善されたと思われる。反面ふちが高くなり、成人患者を介助する際身長の高い職員は少し無理をするため、介助は2人以上で行い、浴槽内の介助者と外介助者とが一致協力して効果をあげている。患者のアンケートで、その他の解答率が高いのは、解答者の82%が、全介助を必要のため、直接患者自身には影響がないと解釈してよいのか、無関心と解釈してよいのか一同迷った。今後の課題は、脱衣場の設置はもちろんのこと、障害度に見合った浴槽の設備が、理想的ではないかと思われる。

53 銭湯式浴槽の入浴介助による看護疲労について

国立岩木療養所

成人PMD病棟スタッフ一同

小児PMD病棟スタッフ一同

七 戸 千 恵

〔研究目的〕

PMD看護で重筋的労作は、患者の抱き上げ、抱き下しを行う入浴、機能訓練、排泄介助であると云われている。そこで今回は銭湯式浴槽における入浴介助の生態に及ぼす負担を調査したので報告する。

〔調査方法〕

対象者は表1の通りである。

入浴介助は13時より約2時間の作業である。検査は、平日と入浴日の2日間にわたり行った。フリッカー値と、腱反射閾値の測定は9時、13時、17時の3回。

自覚疲労症状調査は9時、17時の2回。

尚対象者(看護婦)1名については、ハートレートテレメーターにより、平日作業並びに入浴作業における心拍数を5分間隔で記録した。又浴室の作業環境条件を知るため、温度、湿度も測

表1 調査対象者

職 種	年 令	分類法
看護婦 1.	23才	A
” 2.	26才	B
” 3.	33才	C
” 4.	53才	D
P T	30才	E

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

筋ジス病棟における入浴が、患者、職員、双方にとって、よりよいものとなるように、共同研究を行っている。その中で、私共も設備について、研究を重ね、実際に、浴場の一部改良を行い1年5ヶ月を経過した。改良前の問題点

1)出入口が、ドア式で2ヶ所あり狭い。(写真1)

2)L字型の堀下げ式浴槽のため、床上で洗うために、介助者は中腰姿勢で負担がかかる。

3)排水溝が入口ぎりぎりにあり、排水が悪く、不潔になり易い。以上の3点でした。そこで改良を行った部分が、改良前の浴場と比べて、どのような結果を示しているか。調査検討を行ったので報告する。調査方法は、アンケート式で対象者は成人患者27名、職員29名、患者の最高体重70kg、最低22kg、平均43.8kg